

やさしさだより

平成 28 年 1 月 12 日
尼崎市立 浜小学校
人権教育部 第 9 号

新年 明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新しい年となりました。子どもたちの冬休みはいかがでしたでしょうか。子どもたちも、新年を迎えて気持ちを新たに頑張ろうという思いを持ったことでしょう。

さて、昨年 1 2 月の人権週間に持ち帰らせました「ほほえみ」を読まれてのご意見、ご感想をたくさん頂戴いたしました。その一部を紹介させていただきます。

【 1 年 】 「ないともまるもの」

- ・「ないともまるもの」の絵を見ながら、どうして困るのかを話し合いました。子どもなりの言葉を使って、一生懸命に説明していました。今まで子どもとこのような話をきちんとしたことがないように思うので、今回は良い機会となりました。
- ・いろいろとないともまるものがあるねって、子どもと話をしました。だぶん、これを読まなければ、こういう話をするこもなかつたので、この資料を読めて良かったと思ひました。子どもの成長を感じました。
- ・「ないともまるもの」その題名を見て、一番にうかんだのは、やっぱり家族です。家族があつて、私があります。忙しい毎日で大切なことを忘れそうになりますが、大切に大切に守つていきたいと思ひました。
- ・当たり前のようにある物ばかりなので、つい忘れがちですが、改めて子どもと一緒に考えました。私は子どもに「名前はあなたが生まれてお父さんとお母さんからの最初のプレゼントだよ。」と伝えることができたのが、良かったなあと思ひました。

【 2 年 】 「大きく なつたら」

- ・これからたくさんを経験をして、自分のやりたいことを見つけていこうと話しました。それから、可能性を広げるためにいっぱい勉強や運動をしようとも話しました。子どもと将来のことを一緒に考える機会ができて良かったです。

- ・本を読んだあと、「大きくなったら、人の役に立てる仕事をしたい」と一言。ほんの数年前まではテレビのヒーローになりたいとか、悪者を倒す、なんて言っていたわが子の答えにいつの間に…と、びっくりさせられました。今思っている仕事が将来違っていたとしても常に目標に向かって前に進んでいってほしいなと思いました。それを親として精一杯応援していこうと思います。
- ・今は、たくさんなりたい職業があるようです。幼稚園の先生、学校の先生、マンガ家など…。たくさん仕事があって社会が成り立っていることやすべての職業が大切であることなどをこれから知ってほしいと思います。自分の仕事を誇れるような大人になってほしいと思います。
- ・将来、何になるのか、ゆっくり考えて自分の好きな仕事に就くことができれば良いなと思います。これからがんばれば何にでもなれる可能性のある子どもたちなので、努力を惜しまず、何にでも挑戦していてもらいたいです。

【 3年 】 「だいこんとにんじん」

- ・見た目が人と違っていても、その人と一対一で話していればひどいことを言わなかったでしょう。大勢集まったからひどいことを言っても悪くないような気分になっていると思います。差別をするのは良くないと話し合いました。
- ・集団の中にいると、ひどいことをしていてもそういう感覚なしにしてしまうことがあります。一緒のことをしていないと、輪からはずれてしまうことが妙に不安になり、善悪の判断なく行動することほど、怖いことはないと思います。そういう動きがいじめにもつながると思います。子どもとも事あるごとに話し合い、自分の考えや行動を振り返る時間を持てたらと思います。流されそうになったとき、ぐっと踏みとどまれる強さを持ってほしいです。
- ・人それぞれ個性があり、違っているのが当たり前です。それをおもしろがっておちょくっていじめたりすることは、絶対にしてはいけません。そんなことをしていると自分に返ってきます。自分も他人から見れば個性的な存在です。みんな違ってみんな良い。
- ・自分の仲間じゃない人を笑うのは、遊びのつもりでも自分が同じことをされたら、嫌な気持ちになります。自分がされたら嫌なことは人にもしないで、されてうれしかったことは人にも進んでしてあげるようにすると、みんなが気持ちよく楽しく過ごせるようになると思います。自分を大事にするように友だちを大切にできる子になってほ

しいです。

【 4年 】 「やくそく げんまん」

- ・約束をすることは大切ですが、それがすべて正しいこととは限りません。子どもはいったん思い込むとそれが正しいことではなくても信じてしまいます。会話することで間違いを指摘してあげることも大切だと考えます。
- ・お友達と約束をすることはとっても大切なことだけど、自分の思っていることをお友達に伝えることも大切なことだと思いました。いくら仲良しでも「他の子と遊んだらあかんで。」って約束するのはおかしく感じました。
- ・約束をまもることはとても大切なことです。自分の気持ちと少しちがう約束はどうしたらよいのか、難しいところです。「他の子とあそんだらあかん。」少し寂しい言葉に思いました。

【 5年 】 「こんなこと あんなこと」

- ・短い話でしたが、いろいろと考えさせられました。周りの意見の多い方に合わせてしまうのは、おそらくほとんどの人がそうだと思います。対等な立場の人同士ならまだ自分の意見も言いやすいが、目上の人が見ている場合はなかなか主張しにくいと思います。間違ったことにはきちんと意見を言う意志が大事だと思うが、意見を聞く立場の人間もどんな意見だろうが、まずは、聞く耳を持つことが肝心だと思います。
- ・自分以外の大半の人が自分と違うことを言うとよっぽど自信がない限り、合わせてしまいがちになります。自分が思っていることが違うかもと思ったり、空気を悪くするのはと、思ったりしてしまう。けれど、間違ったことを人に合わせてしまうのは良いとは言えません。違うことを違うと言える「勇気」を持ってほしいです。
- ・この本を読んで、他の人の意見にとらわれず、自分の意見をはっきりと伝えられる人間になれるよう、私自身も考えさせられました。そして、子どもにも、周りの意見ばかりにながされすぎず、誤っているなあと思ったら、違うときは違うと言える人間になってほしいと思います。

【 6年 】 「命のビザ」

- ・命令にそむいてビザの発行を決断したのは、自分の身もどうなるのか保証もなく、と

ても勇気のいることで、他人のために私はそこまではできません。杉原さんの勇気で多くのユダヤ人が助かり、今でも偉大な日本人として歴史に残り、尊敬します。

- 自分の立場が悪くなるとわかっているのに、人々のために行動する姿は、見習うところがたくさんありました。たとえ、助けることができなかった人がいても、一生懸命行動したことが伝わったから、感謝されたのだと思います。周りの人の役に立つことを小さなことから始められたら、平和な世の中になると思います。
- 人の気持ちのわかる優しい心と決断力、覚悟ももった主人公だと思いました。人の世のために尽力できるよう、見習わないといけないと思いました。

< ご協力いただきましてありがとうございました。 >